

短期大学における被服構成および 実習に関する研究 (第1報)

短大家政科の実態調査

荻野千鶴子 ・ 古川智恵子

加藤恵子 ・ 後藤恵喜

Studies on the Lesson and Practice of Dress Composition in Junior College (Part 1)

Investigations on the Real conditions
of the Household Economy course in
Women's Junior Colleges.

by

C. OGINO, C. FURUKAWA,

K. KATO and Y. GOTO

緒 言

時代の変遷に伴い、最近とみに社会の進展はめまぐるしくなり、衣生活の面においても市場には既製服がはんらんし、また被服材料、デザイン、縫製技術などの進歩の著しい現在において、短大家政科における被服構成および実習の教育がこの新しい時代に即応して行なわれているだろうか。ややもすれば惰性に流れているのではないかと思われるので、本学学生の実情をつかみ、また一方全国家政系短大の実態を調査して適切な教材の設定とともに、その指導法を考えたいとの目的で本研究を行なった。

調 査 方 法

つぎのような調査用紙2枚を作製して、昭和44年2月全国家政系(被服関係)短大125校を無作為に抽出して、これを配布して依頼し、回収するとともに、このうち数校を訪問して実態のききとり調査を行なった。アンケート用紙の回収率は61%であった。

被服構成及び実習についての調査

No. 1

短期大学部 _____ 科 _____ 専攻 _____ 住所 _____ 電話 _____

項目	教科名		洋裁	和裁	教員	教科目		洋裁 教員数	和裁 教員数
	洋裁	和裁				洋裁	和裁		
被服実習室数					専任教授				
1室の定員数 (平均)					専任助教授				
一室の実習学生数	最大	学生数			専任講師				
		指導教員数			非常勤講師				
	最小	学生数			助手				
		指導教員数			その他				
備品 (各室に備えつけのもの)					共通備品				
品名	個数	品名	個数	品名	個数	品名	個数	品名	個数
普通ミシン		動力ミシン		えもんかけ		オーバーロック			
電気アイロン		特殊ミシン		袖まん		工業用ミシン			
スチーム アイロン		仕上台				映写機 (8mmスライド用)			
電気ごて		まんじゅう				人体計測器			
婦人用ボデー		馬				オーバーヘッド プロジェクター			
平面鏡		子供用ボデー							

名古屋女子大学家政科被服研究室

No. 2

大学短期大学部 _____ 科 _____ 専攻 _____ 住所 _____ 電話 _____

			必修		選択		講義内容及び実習内容								
			単位数	時間数	単位数	時間数	講義その他			実習細目			部分縫		
							内容	時間数	期間	細目名	時間数	期間	部分縫名	時間数	期間
洋裁	1年時	前期	()分	()分											
		後期	()分	()分											
	2年時	前期	()分	()分											
		後期	()分	()分											
和裁	1年時	前期	()分	()分											
		後期	()分	()分											
	2年時	前期	()分	()分											
		後期	()分	()分											

名古屋女子大学家政科被服研究室

結果および考察

1. 全国家政系短大の実態

表1に示すように家政いわゆる家政系特に被服に関係のある短大が全国にどれくらいあるかを調べたところ、昭和45年現在国立には1校もなく、公立は43校中18校で41.9%、私立は414校中189校即ち45.7%にて殆んど半数近くを占めている。これらの中での、家政科の必修科目である被服構成および実習がどう行なわれているかアンケートの結果をまとめた。

2. 被服実習室数

被服実習室数は学生の定員数など学校の規模や履習単位数によって異なるものであるが、調査の結果は表2のようであった。即ち洋裁室は、1室の学校が最も多く63.8%、ついで2室が15.5%であり、和裁室はこれも1室が最も多く68.9%、また和洋兼用の室を1室もっている学校が18.9%、ミシン室を独立して1室もっている学校が3.5%あった。これはミシン室をはさみ両側に被服室をもっていたり、また1室にミシンを集めているため有効なミシンの使い方をしていてもいえる。実習室の総数としては、1室から7室まであって、そのうち2室が最も多く半数以上の55.2%であり、つぎに3室の22.4%であった。

3. 最大実習学生数

被服の実際授業における一室の学生数の最大・最小をしらべたが、これは学校差が顕著に出ていた。例えば最大数12名という少ないところがあり、30名以下のところが

	公立		私立	
	数	%	数	%
家政科	4	22.2	92	48.7
家政科 被服専攻	7	38.9	7	3.7
家政専攻	2	11.1	60	31.8
服飾専攻	0	0	3	1.6
生活専攻	0	0	1	0.5
服飾デザイン専攻	0	0	1	0.5
家政・被服専攻	1	5.6	0	0
被服科	0	0	4	2.1
生活科 被服専攻	1	5.6	0	0
家庭生活科	0	0	2	1.0
服飾科	0	0	2	1.0
被服学科	3	16.7	16	8.5
被服科 被服専攻	0	0	1	0.5
計/全国短大	18/43	41.9	189/414	45.7

表1 全国家政科関係一覧(45年度)

数	数							
	0	1	2	3	4	5	6	7
洋		63.8	15.5	6.9	1.7	1.7		
和	6.8	68.9	3.5	5.2	1.7			
兼		18.9		1.7				
ミシン		3.5						
計		12.1	55.2	22.4	3.5		3.5	3.5

表2 被服実習室数(%)

人数	人数												
	0	12	20	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	70~74	180~200	
洋	校数		0	0	4	2	8	8	21	4	7	2	1
	%		0	0	7.0	3.5	14.0	14.0	36.8	7.0	12.3	3.5	1.7
和	校数	5	1	1	2	2	7	6	20	4	6	2	1
	%	8.8	1.7	1.7	3.5	3.5	12.3	10.5	35.1	7.0	10.5	3.5	1.7

表3 最大実習学生数

洋裁8%、和裁8.7%あるのに比し、洋裁180名、和

裁 200 名というように多人数を収容している学校もある。最小人数でも 50 名以上というのが僅かながらも洋裁で 6%，和裁で 2% みられた。このように学校差が甚しいので、人数の多いことは実習成果の一要因であるとも考えたので、一室の学生数の最大数をみたところ、表 3 のようであった。即ち洋裁では 30~200 名まで種種みられたが、最も多いのは 50~54 名で全体の 36.8%，ついで 40~49 名の 28% であったが、70 名以上が僅かながらも 5.2% あった。和裁は洋裁と全く同じ傾向にあるが、12 名或るいは 20 名というのが 1.7% ずつあり、また 180 名というような学校もあった。

4. 定員超過の実態

これらの学生数が教室の定員数に対してどうであるかを調べたところ、表 4 に示すとおり、定員超過の学校が洋裁 22.5%，和裁 20.7% あり、洋裁では 100~110% が最も多く 8.6%，和裁は 110~120% が同じく 8.6% あって、150% 以上というのが僅かながらも洋裁 3.5%，和裁 1.7% あったが、これは講義科目と異なり、実習の場合の定員超過は作業能率にも影響する点が多いので一考を要すると考えられる。

		率	100~110	110~120	120~130	150%以上	計
洋	校数		5	4	2	2	13
	%		8.6	6.9	3.5	3.5	22.5
和	校数		3	5	3	1	12
	%		5.2	8.6	5.2	1.7	20.7

表 4 定員超過の実態

5. 備 品

つぎに各学校における被服室各室備えつけ備品については、表 5-1 のように普通ミシンは、11 台~15 台が最も多く 28.5%，つぎに 21 台~25 台が 21.4% であった。アイロンは、11 台~15 台が 29% で最も多く、つぎに 6 台~10 台の 23.6% 16 台~20 台の 21.8% であった。その他電気ゴテは 1~5，11~15 が最も多く何れも約 23% ずつでほぼ半数

品目	数	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~95
普通ミシン	3.5	3.5	28.5	12.5	21.4	10.7	7.1	3.5	3.5	5.3	
電気アイロン	9.0	23.6	29	21.8	5.4	7.2	1.8		1.8		
電気ゴテ	22.7	15.9	22.7	6.8	4.5	13.6		6.8		6.8	
仕上げ台	29	36.3	12.5	10.9	5.4	3.6	1.8				

品目	数	0	1	2	3	4	5	6~10	11~15	16~20	21~25
スチームアイロン	1.8	9.0	20	9.0	16.4	20	10.9	9	3.6		
動力ミシン	27.7	18.5	13	13	3.7	9.3	3.7	9.3	1.8		
特殊ミシン	27.3	36.4	16.4	3.6	1.8	7.3	3.6	1.8			1.8
平面鏡	1.9	19.2	25	15.4	13.5	7.7	17.3				
三面鏡	70.9	21.8		3.6	1.8		1.8				
子供用ボディ	19.2	7.7	27	13.5	5.8	9.6	15.4				1.9
うま	1.9	9.3	3.7	11.1	9.3	13	44.4	5.5			1.8

品目	数	1~3	4~6	7~9	10~12	13~15	16~18	19~21	22~24	25~27	28~49	50~60
婦人用ボディ	14	15.8	14	15.8	7	7	7	1.7	7	8.7	1.7	
まんじゅう	5.4	30.9	3.6	32.7	7.2	1.8	14.5	1.8			1.8	
袖まん	22.2	33.3	11.1	31.1	13.3		2.2			2.2		
えもんかけ	43.9	24.4	4.9	24.4	4.9		9.8		2.4	2.4	7.3	

表 5-1 備 品

を占めている。その数の開きは大変大きい、これは1本ずつを数えた学校と、何本立てかになっているのを1つに数えた学校とがあったのではないと思われる。作業能率を考えると、備品にも影響されることが多いと考えたので、各室備えつけ備品を調査したが、各学校の条件により意図するところが十分に果たせなかった。これら備品の数は、その室の実習学生数により条件が異なるので数字の上での良否その他の判断は非常にむづかしい。そこでこれらのなかで何れの作業にも最も回数多く使われるのは、ミシンとアイロンであると考えたので、学生何人に対して1台備えてあるかを調べたところ、表5-2のように、ミシン1台に学生1.5人～

品目	人数比	0.6～	1.5～	2.5～	3.5～	4.5～	5.5～	6.5～	7.5～	8.5～	9.5～	18
		1.4	2.4	3.4	4.4	5.4	6.4	7.4	8.4	9.4	10	
ミシン	校数	12	26	11	5	1	1				1	1
	%	20.7	45	19	8.6	1.7	1.7				1.7	1.7
アイロン	校数	3	21	16	8	3	1	3	1		1	
	%	5.3	36.8	28	14	5.3	1.8	5.3	1.8		1.8	

表5-2 学 生 比

2.4人が最も多く45%、0.6人～1.4人が20.7%で比較的ミシンの多いのに気づいた。

またアイロンは1台に学生1.5人～2.4人が36.8%、2.5人～3.4人が28%であった。各室共通備品については表5-3のように、人体計測器が最も多く40.7%、ついで映写機、オーバーロック、オーバーヘッドプロジェクターなどがみられた。

	数		%		数		%		数		%	
	1		2		3		計					
人 体 計 測 器	19	32.20	3	5.08	2	3.39	24	40.68				
映 写 機	15	25.42	6	10.17			21	35.59				
オ ー バ ー ロ ッ ク	14	23.73	2	3.39	1	1.69	17	28.81				
オ ー バ ー ヘ ッ ド プ ロ ジ ェ ク タ ー	10	16.95	1	1.69			11	18.64				
工 業 用 ミ シ ン	8	13.56	5	8.47	1	1.69	14	23.73				
ス ラ イ ド	2	3.39					2	3.39				

表5-3 各 室 共 通 備 品

6. 教員数および助手数

つぎにこのような環境における教員はどうなっているかを調べた。(表6) まず各学校教員

	人数	1	2	3	4	5	6	8	12	0
		洋和								
専 教 授	I	24.1	1.7	1.7						72.4
	II	30.8	5.8	1.9						61.5
助 教 授	I	50.0	6.9	5.2	1.7					53.4
	II	36.5	38.0	5.8						65.3
講 師	I	48.3	10.3	5.2		1.7				34.4
	II	46.1	7.7	3.8						42.3
非 講 師	I	27.6	18.9							53.4
	II	32.7	3.8							63.5
助 手	I	39.6	31.0	5.2	5.2	1.7		1.7	1.7	13.8
	II	36.5	26.9	7.7	3.8	1.9		1.9		21.1
副 研 他	I	8.6	5.2	1.7			1.7			84.4
	II	9.6	1.9					1.9		86.5

表6 教 員 数 (%)

I…洋裁 II…和裁

の資格別人数は、専任教授のいない学校が洋裁72%，和裁62%，1名のところは、洋裁24%，和裁31%あり、多いところで3名というのが和洋裁とも2%たらずあった。助教授については洋裁は1名が最も多く50%，和裁は1名・2名ともほぼ同じで約37%であった。講師・非常勤講師については何れも1名が多かった。助手については和洋裁とも1名が多く38%前後をしめ、ついで2名が約30%であったが、これらの助手と教員の割り合い（表7）をみたところ、教員1に対して助手1の学校が最も多く和洋裁とも40%～41%にて殆んど半数に近いものが理想的と思われる形であったが、また反面全然助手のいない学校が洋裁9%，和裁20%あった。

	1		1 以上					率	
	校数	率	1.3	1.5	2.0	2.5	3		
洋	24	41.4	0	2	4	1	1	13.8	
和	24	40.0	2	1	4	0	0	12.7	
	1		以下					率	
	0.17	0.25	0.33	0.5	0.6	0.67	0.75		無
洋	1	0	3	9	1	5	2	5	44.8
和	0	3	3	5	1	5	0	11	47.3

表7 助手割り合

7. 教員授業時間数

教員および助手などの授業時間数は表8のように、教授は3時間～4時間、8時間～9時間が多く、12時間を限度としているのに対し、助教授は、12時間～14.5時間が多い。また講師は14時間～16時間が最も多く洋裁で26時間というのものもある。助手は種々あって12時間～15時間が最も多く、24時間というのものもあるが、全体にやや多いように思われた。

時間数 洋和																					
	2	3	4	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	20	21	22	24	26	
教授	I	2				3	3			3		1		1							
	II	1	2	2	1	1		3		3		1	1	1							
助教授	I		1		1	1	2	1	1	3	3	1	4			2			1		
	II				1	1	1		1	5		4	5	1	1	1					
講師	I	1	1		2	1	2	1		9	4	3	5	2		2				1	1
	II				1		3	4		6		3	6	2	1	2					
助手	I		1		2	3	1	2		5		4	4	1		7	2	1		2	
	II				3	4	1	2		7		3	3	1	1	2	1	3		1	

表8 授業時数

8. 単位履習方法

履習単位は（表9）必修においては、洋裁は最大が12単位であるが、そのうち2単位が最も多く35%，つぎに4単位の29%である。和裁はこれも洋裁と同じく2単位が多く41%，つぎに4単位29%であり、最大は10単位であった。和洋裁の計としては、4単位が最も多く33%，つぎに8単位、6単位の順であった。必修をとってないところは、洋裁2%，和裁14%あったが和洋裁何れかは履習していた。選択においては、履習しない学校が洋裁35%，和裁41%あって、洋裁・和裁何れも選択しない学校は33.3%あった。そのうち洋裁の最も多いのは2単位で41%，和裁も2単位が39%で最も多く、最大の単位数は和洋裁とも6単位であった。つぎにこれらの単位の学年配分をみると、（表10）必修において、1年より2年に多く課している学校は

洋裁・和裁とも約51%で最も多く、選択ではこの反対に2年の方が多かった。また1・2年同じ配分のところは必修の洋裁は29%，和裁37%であった。これらの最大単位数は（表11）のように、必修で洋裁12単位、和裁10単位、全体の平均は必修の洋裁4単位、和裁3単位であった。

種別		単位数											
		0	1	2	3	4	5	6	8	10	12	16	20
必	I	2.0	2.0	35.3	5.9	29.4		9.8	9.8	3.9	2.0		
	II	13.8	3.9	41.1	3.9	23.5		5.9	5.9	2.0			
	I+II			5.9	2.0	33.3	2.0	15.7	19.6	5.9	5.9	7.8	2.0
選	I	3.53	5.9	41.2	2.0	11.8		2.0					
	II	41.2	3.9	39.2		13.8		2.0					
	I+II	33.3	2.0	9.8		39.2	2.0	2.0	7.8	3.9			

表9 単位履習方法 (%)

項目	種別	洋		和	
		必	選	必	選
1年=2年	必選	29.4	39.2	37.3	49.0
1年>2年	必選	52.9	5.9	51.0	2.0
1年<2年	必選	17.6	54.9	11.8	49.0

表10 単位学年配分 (%)

項目	種別	必			選		
		洋	和	計	洋	和	計
最大	1年	6	4	8	2	3	4
	2年	8	6	12	4	4	8
大計		12	10	20	6	6	10
平均		4.1	3		1.6	1.0	

表11 最大単位数 (単位数)

時間	時間I	時間II	44年度 %	本学調査 %
0		3	1.5	
		4	0.7	
		5	0.7	
		6	0.7	
1		1	0.7	2.0
		0	2.2	
2		2	8.0	6.1
		3	0.7	2.0
		4	3.6	2.0
		2	1.5	2.0
3		3	26.3	24.5
		4	0.7	
		6	1.5	2.0
4		0	1.5	
		3	2.2	4.1
		4	18.3	12.2
		5		6.1
		6	0.7	
5		3	2.9	4.1
		5	3.6	2.0
		8	0.7	
		10	0.7	2.0
6		3	1.5	2.0
		6	8.0	18.4
		12		2.0
7		4	0.7	
		7	4.4	2.0
8		4	0.7	
		9	0.7	
10		10	1.5	2.0
		12	0.7	2.0
11		11	0.7	
19		0	0.7	
22		0	0.7	

表12 履習時間

9. 履習時間

つぎに履習時間（表12）は、1・2年とも3時間ずつが24.5%で最も多く、これは私立短大協会が昭和44年度行なった全国私立短大実態調査と全く同じ傾向である。つぎに6時間ずつ18.4%，4時間ずつ12.2%であった。この1時間というのは、（表13）に示すように50分が最も多く、46.2%，つぎに45分が36.2%であった。

分数分	校数%
40	0.8
45	36.2
50	46.2
55	15.4
60	1.5

表13 1時間の分数

1.0. 各短大の実習内容

各短大実習内容の洋裁は図1のようである。

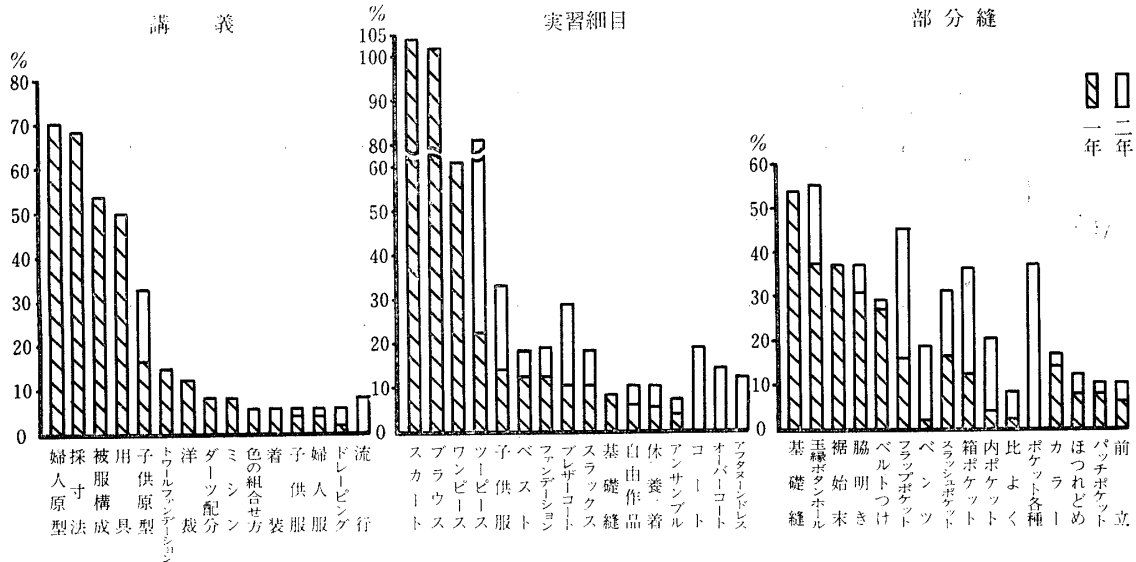


図1 各短大の実習内容(洋裁)

講義は婦人原型・採寸・被服構成・用具が何れも50%以上にて1年次に課せられている。

実習細目は、スカート・ブラウスが最も多く1年次において100%以上をしめているが、これはすべての学校に課せられ、なかには2着製作しているところがあるからである。つぎに多いのはワンピースの82%、ワンピース62%、ついで子供服・ブレザーコート の順であった。しかしワンピース・子供服・ブレザーコートは2年次に製作しているところが多かった。

部分縫については、基礎縫・ボタンホール・ポケットなどが多くみられた。

和裁においては(図2)講義は基礎技術・用具についてが1年次に60~70%で最も多かった。

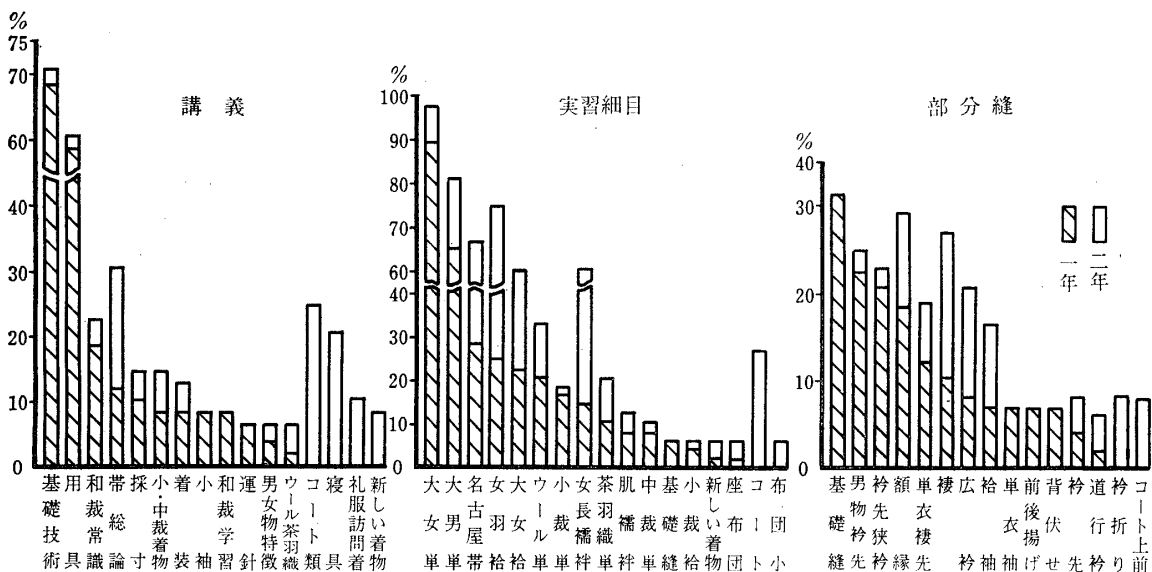


図2 各短大の実習内容(和裁)

実習細目は、大裁女物単衣長着が最も多く、100%近くあり、その殆んどが1年次に課せられ

時 時 (分)	1 0 0 0										2 0 0 0																	
	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1	101	201	301	401	501	601	701	801	901	1	101	201	301	401	501	601	700
大 裁 女 単			1	(1)			1	(1)	1	2	4	4	4	2	4	4	1	1	1	1	1	1					1	(1)
大 裁 男 単			1		1	1	1	(2)	2	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	(1)		1		1				(1)
帯	1(4)	1	2	(1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1							(1)
女 羽 織 袴						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
大 裁 女 袴																												(1)
ウ ー ル 女 単	(1)				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
小 裁 単	(2)		1	(1)	(1)	(3)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
長 じ ゅ ば ん 女				(1)	(2)	(2)	(1)	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
茶 羽 織 単				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
肌 じ ゅ ば ん	1	1	1	(1)	2	(1)	(5)																					(1)
中 裁 単	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
基 礎 縫	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
小 裁 袴				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						(1)
新 しい 着 物																												(1)
座 ぶ と ん	2																											(1)
コ ー ト																												(1)
ふ と ん																												(1)

表15 細目実施時間一覧表(和裁) ()は44年度全国私短協会による

ている。つぎに大裁男物単衣長着が80%，ついで名古屋帯，大裁女物袷長着，女物長襦袢が何れも50%以上であった。

部分縫は基礎縫が1年で最も多く，つぎに，えり・裄などが多くみられた。

11. 細目実施時間

これらの細目はどれくらいの時間で課せられているかを調べたところ，和洋裁ともその時間差には甚しいものがあつた。これを一覧表にすると洋裁は（表14）のようである。ブラウスは最低250分から最高2,000分であり，またツーピースは500分～3,300分というように大きな開きがみられる。また和裁は（表15）のように，大裁女物単衣長着は330分～2,600分，帯においても180分～1,350分のように洋裁と同じく学校差が非常にみられる。以上をまとめ時間差をみたところ（表16）最も差の大きなものは，ワンピース56時間，ついで子供服50時間であり，また大裁女単衣長着45時間，大裁男物単衣長着42時間の差がみられた。これら洋裁においては勿論のこと，単衣か裏つきか，又はそのデザインや材質・仕立方により時間数は異なるが短大家政科において何時間位で課すのが妥当であるか，検討の必要があると思われる。また家庭作業をどう考えるか，これも被服実習としては大きな課題であろう。

	細目	最小分	最大分	時間差/50
洋裁	ツーピース	600 500	3300	54.0 56.0
	子供服	300	2800	50.0
	ワンピース	440	2300	37.2
	ブラウス	250	2000	35.0
	ブレザー	1160	2600	28.8
	スカート	400	1200	16.0
和裁	大裁女単	330	2600	45.4
	大裁男単	330	2450	42.4
	女羽袷	540	2240	34.0
	コート	600	2300	34.0
	ウール	440	1800	27.2
	女袷長	1080	2400	26.4
	帯	180	1350	23.4
	小裁	180	990	19.8
	茶羽織単	500	1400	18.0

表16 細目製作時間差

ま と め

以上各短大のアンケートの結果をまとめると，

1. 実習室の最大学生数はまだまだ相当多い学校がある。できれば40人以下にとどめたいものである。
2. 教員は，和洋裁とも教授のいない学校が半数以上あつた。
3. 教員の授業時間数は，18時間～26時間までもあり，時間数は全体に多いように思われた。
4. 実習細目の種類は大体同じ傾向にて，75%以上履習しているものは，スカート，ブラウス，ツーピース，大裁女物単衣長着，大裁男物単衣長着，帯，大裁女物袷羽織であつたが，今後細目の精選が必要と考える。
5. 実施時間は学校差が非常に大きかつた。

今後時代に即した家庭での縫製のあり方を研究し，学校においてどんな教材を何時間で仕上げるか，また被服指導の重点のおき方に問題があると考えるので今後これらの方向へ研究をのばしていきたいものである。

最後に本研究に御協力下さいました各短大の諸先生ならびに山本啓子副手・皆川琴江研究員

に深甚なる謝意を表します。

参 考 文 献

- 1) 文部省大学学術局技術教育課：昭和45年度短期大学一覧，短期大学資料第41号
- 2) 日本私立短期大学協会：昭和44年度7月，私立短大家政科系教員研修会資料（被服）